

市民環境大学OB会 ニュースレター



第22号 2018年9月20日 発行

黒川清流公園 わきみず池が白濁!!

湧水異変の最新情報

9月13日の三者協議会で白濁の原因がベントナイトであることを業者側が認め、25日現在工事は中断中!

黒川清流公園の湧水に異変!!

2018年7月、ついに恐れていた黒川清流公園の湧水に異変が生じた。公園中心部の湧水の池が真っ白に白濁していたのである。(巻頭写真参照)これは日野市環境情報センターの職員によって発見され、すぐに日野市に報告され、また新聞報道(朝日、読売、東京各新聞)もされた。更に7月28日段階では湧水量も急減しており、あずまや池東の湧水の流れは写真のようにほとんど止まってしまっている。

現在、公園上部台地ではマンション建設の基礎杭工事が進行中であり、これとの因果関係が非常に強いことが想定され、急遽、東京都、日野市、建設事業者による対策会議が7月27日開かれた。

今回のニュースレターではこの問題を緊急テーマとして取り上げることになった。以下にOB会長の飯島さんに経過を報告して頂いたが、すでにニュースレター17号で湧水枯渇について危惧する投稿を頂いており今回は第2弾となる。

投稿 「多摩平の森・新築工事計画について(その2)」

OB会長 飯島 利三

いま、私たちが最も大切にしている日野台地南段丘崖の湧水源(黒川清流公園の一部)が危機に瀕しています。

日野台地の南側は浅川が刻んだ見事な河岸段丘を複数形成し、各段丘崖から豊かな清水が湧水となっており、夏は涼しく、冬は暖かく、まさに台地の血液のように動植物を育み続けて数十万年の歳月を重ねてきました。私たちの先祖もこの地の恵まれた自然をこよなく愛して、縄文の昔から絶えることなく遺跡が見つけられていることから、この地の素晴らしさが証明されているように思います。

私たちは新築工事計画を拝見した時、一番心配したことは今の湧水群を守り、維持し続けることができるかということでした。計画では地上13階(民間住宅の上限)の高層、これを支える杭が崖線に沿って数m間隔で打ち込まれることになっている。これでは地下水路が移動して湧水が止まるのではないかと尋ねましたら、それは大丈夫ですと一笑に付されてしまいました。また、日野礫層へ注入する凝固剤(ベントナイト)についても流失し、湧水に混入して出てくるのではと尋ねましたが、全く否定されました。

これら2点について、工事が進んできました、私たちの心配が見事に的中してしまい、今杭打ちは中断しているようです。あずまや池やわきみず池が白濁した件についても自分たちの杭打の結果と認めず、白濁水と凝固剤の成分分析をしてから再協議することになりました。

これからは東京都とともに、日野市・市民が一体となって自然環境の保全・保護に努めていくことが必要であり大切なことと思います。共に頑張りましょう。



干上がった湧水?
2018/7/28撮影

「国分寺真姿の池見学会開催」

定例の8月OB会では今年度2度目のフィールドワークとして国分寺市を訪れました。国分寺市は武蔵国分寺公園一帯を最も重要な拠点の一つとして位置付け、真姿の池湧水群上部のマンション建設計画では湧水枯渇を避けるための大幅な計画変更があった場所でも知られています。

今回の見学会は13名の参加で、国分寺駅を出発後、武蔵国分寺公園では国分寺に詳しい佐山さんから公園内の防災井戸や、防災トイレの説明を受けました。その後目的の真姿の池湧水群、お鷹の道湧水群を見学し、途中でおいしいかき水を満喫した後は武蔵国分寺資料館も見学しました。

現在黒川清流公園湧水問題を抱える日野市の住民としては、国分寺の湧水保護活動の重要性を考えさせられる見学会ともなりました。



武蔵国分寺公園で記念撮影

投稿

黒川清流公園のアマナとアマナの苞について

OB会 田中 徹

黒川清流公園のアマナは日本固有種のアマナと外来種のおオアマナが生育しています。アマナはユリ科の草本で、日本固有の野草で3～4月に白い花を1花茎に1個咲かせます。球根（鱗茎）はアマナ（甘菜）の名の通り食べられていました。全国的には個体数が少なくなっていて貴重な野草です。下のA、B、C、Dゾーンで小群落をつくり細々と自生しています。

外来種のおオアマナは台地（崖線）上部Eゾーンで大群落をつくり台地下部や山王下あたりへも進出し、小群落をつくりさらに増えつつあります。1花茎に10～15個花をつけ繁殖力が優勢なのです。開花時期は白い花のじゅうたんで非常に綺麗ですが生態系的には好ましくありません。

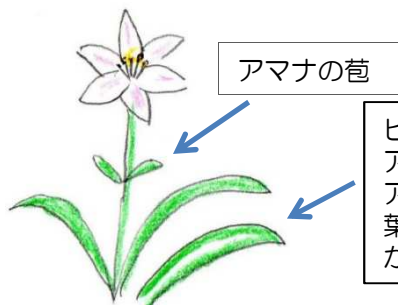


オオアマナ (Eゾーン)

アマナ (A,B,C,Dゾーン)

調査のきっかけと調査結果

昨年（2017）花期が終わった後アマナについて植物図鑑を見ていたら図鑑によって花茎につく苞（葉状苞）の数の表記に違いがあることに気づきました。苞とは花のすぐ下の花茎につく小さな葉状のものです。図鑑によっては苞の数の違いがアマナとヒロハノアマナの判別基準になっています。



ヒロハノアマナ
アマナの類似種で花がアマナより少し大きく葉が広幅で主脈に白帯があり判別できます。



各種図鑑のアマナ苞の数			
図鑑名	出版社	アマナ	ヒロハノアマナ
身近な野草雑草	山と溪谷社	2個	3個
原色日本植物図鑑	保育社	2個ほど	3個
原色牧野植物図鑑	北隆館	3個	苞記述なし
野草大図鑑	北隆館	2個	3個
日本の野生植物	平凡社	苞記述なし	3個
原色植物観察図鑑	保育社	3個	苞記述なし

アマナ苞数調査結果(2018/3/28)			
※無作為に10株抽出し調査しました。			
※Dゾーンはアマナが少なく開花株3株でした。			
調査場所	調査個数	2個苞	3個苞
Aゾーン	10株	5株	5株
Bゾーン	10株	2株	8株
Cゾーン	10株	10株	0株
Dゾーン	3株	3株	0株

調査結果の考察

黒川清流公園ではオオアマナ進出の結果、日本固有種のアマナが減少し細々と小群落で自生しています。黒川清流公園側では台地上下部とも2個苞のアマナが、山王下公園付近では3個苞のアマナが優勢のようでした。たったこれだけの調査ではわかりませんが、図鑑や調査結果を考えると苞数で種名を特定するのは難しく、アマナの苞数は2～3個の表示が適切かと思いました。 2018/5/3 記

OB会メンバー 活動イベントニュース

- OB会第2回フィールドワーク “国分寺真姿の池湧水群見学会” 実施（8月16日）
- 市民団体「水の郷日野ビジョン450」設立シンポジウム開催（9月8日）

OB会 輪読報告 題名 森林飽和 著者 太田猛彦

7月 第三章 森はどう破壊されたか 二 産業による荒廃の加速 製鉄のための炭となる。

発行人：市民環境大学OB会 飯島利三 編集担当：OB会 尾添俊二